スイッチ間のリンク診断の設定

Cisco MDS NX-OS リリース 7.3(0)D1(1) より、した Cisco MDS 9700 および 9500 シリーズ スイッチは、新たな Interswitch Link（ISL）診断機能をサポートします。この章では、Cisco MDS 9500 および 9700 ファミリ スイッチで ISL 診断を設定する方法を説明します。

- ISL 診断についての情報 （1 ページ）
- ISL診断の設定 （5 ページ）
- ISL 診断のデバッグ （14 ページ）
- その他の参考資料 （14 ページ）

ISL 診断についての情報

ISL 診断機能は、ネットワーク内の Cisco MDS スイッチ間でスイッチ間のリンクの健全性を検証するのに役立ちます。

ISL 診断機能の概要

ISL 診断は、Cisco MDS スイッチの次の FC モジュールでサポートされます。

- Cisco MDS 9500 シリーズ スイッチのアドバンスト 8 Gbps モジュール
  - DS-X9232-256K9
  - DS-X9248-256K9
- Cisco MDS 9700 シリーズ スイッチの 16 Gbps モジュール
  - DS-X9448-768K9
  - DS-X9334-K9
- Cisco MDS 9700 シリーズ スイッチの 32 Gbps モジュール
  - DS-X9648-1536 K 9

（注） モジュール上のISL診断サポートは、ジェネレータおよびリフレクタ ポートにのみ限定されます。

- 両側でサポートされている異なるスイッチファミリの2つのモジュール間で診断テストを実行できます。

次のテストは、ISL 診断を使用して実行できます。

- 遅延テスト/ケーブル長テスト
- シングルホップ トラフィックのテスト
- マルチホップ エンドツー エンドのトラフィックのテスト

ISL 診断は、Cisco MDS スイッチの次の FC モジュールではサポートされません。

- DS-X9224-96K9
- DS-X9248-96K9
- DS-X9248-48K9
- DS-X9304-18K9

（注）
- ISL 診断は、Nexus 2000 および Nexus 5000 などその他の非 MDS スイッチではサポートされません。
- ISL 診断は、Cisco MDS 9148S 16G マルチレイヤ ファブリック スイッチと Cisco MDS 9250i マルチサービス ファブリック スイッチではサポートされません。
- ISL 診断は、Cisco MDS スイッチの FCoE および IPS モジュールのいずれかではサポートされません。
- ISL 診断機能は、Cisco MDS 9700 および 9500 スイッチ間で相互運用することができます。(たとえば、特定の ISL 診断テストでは、ジェネレータ スイッチは Cisco MDS 9700 スイッチになり、リフレクタ スイッチは Cisco MDS 9500 スイッチまたはその逆になります。)

遅延テストまたはケーブル長のテスト

遅延のテストは、2 つの Cisco MDS スイッチ間の ISL の遅延と長さを測定します。

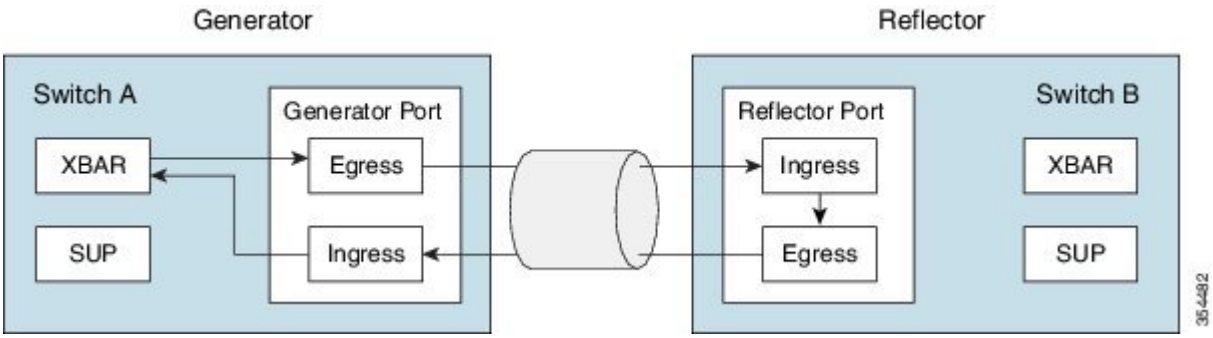
フレームは、リフレクタ スイッチ ポートによりタイムスタンプがキャプチャされているジェネレータ スイッチ ポートにループバックされます。

タイムスタンプは、リフレクタ ポートの遅延と同様に両方向でリンクの遅延を測定できます。ケーブル長は、リンク遅延のみを使用して計算されます。

（注） 遅延のテストを実行すると、同じリンク上で実行しているその他のトラフィックが存在しない可能性があります。

図 1 : 遅延テスト （3 ページ） 遅延テストの詳細を表示します。

図 *1* : 遅延テスト



1 つのホップ トラフィックのテスト

シングル ホップ トラフィックのテストは、さまざまなフレーム レートでトラフィックを処理する ISL の効率性を確認することによって、ISL の健全性を検証します。

MAC ハードウェアで使用可能な内部トラフィック ジェネレータ機能を使用して、ジェネレータ スイッチでは、ファイバ チャネル (FC) フレームが生成されます。これらのフレームは、テスト対象 ISL over ジェネレータ スイッチポートから送信されます。リフレクタ スイッチは、フレームを受信し、通常のファブリック パスのスイッチング経由でスイッチに、ISL テストの下に受信したポート経由で戻るフレームを送信します。

ISL トラフィックの効率がジェネレータ スイッチポートに戻り受信したパケットの数に基づいて計算されます。

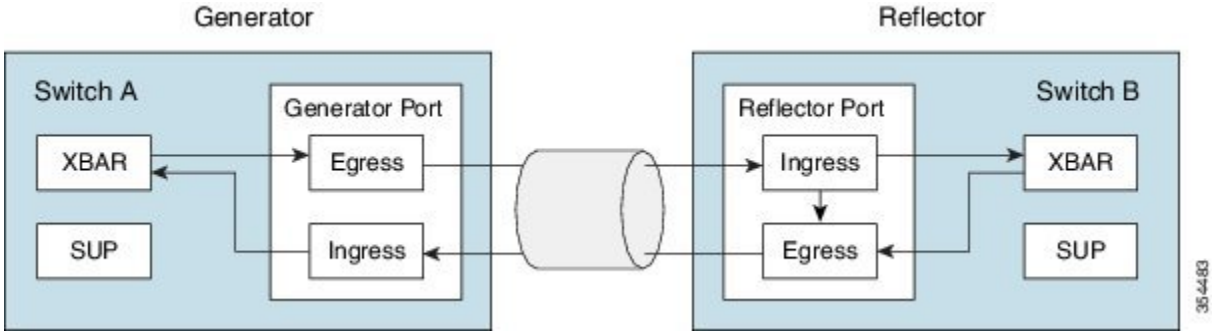
（注） シングル ホップ テストを実行すると、ときにありません同じリンク上で実行しているその他のすべてのトラフィック。

次のシナリオでエラーが返さトラフィック テスト。

- 場合は、ISL は稼働ではありません。
- 場合は、ジェネレータ ポートには、内部トラフィック ジェネレータ機能はありません。
- 場合に、リフレクタは、ループバック モードでは配置されません。

図 2 : 1 つのホップ トラフィックのテスト （4 ページ） シングル ホップ トラフィックのテストの詳細を示します。

図 *2: 1* つのホップ トラフィックのテスト



マルチホップ エンドツー エンドのトラフィックのテスト

マルチホップ テストは、ホスト スイッチとファブリック間の ISL の健全性と、ファブリックのターゲット スイッチを評価します。

ホストをファブリックのターゲットにホストを接続する前に、マルチホップ テストを使用して、ホスト ポートとターゲット ポート間のファブリック パスをテストします。

ホスト スイッチとターゲット スイッチ間で複数のホップが存在する可能性があります。特定の設定は中間スイッチで必要です。

（注） ファブリック内の中間のスイッチには、ジェネレータとリフレクタ ポート間にルートが存在する限り、例えばFC、FCoE、IPS、などのインターフェイスまたはリンクを有する可能性があります。

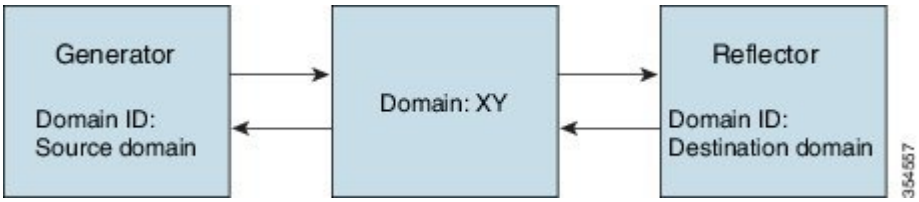
ファイバ チャネル（FC）フレームがジェネレータ スイッチポートで生成され、最初のホップ リンクに送信します。これらのフレームは、リフレクタ スイッチに到達するまで中間のスイッチを通過します。その後リフレクタ スイッチはフレームを切り替え、ジェネレータ スイッチにそれらを返します。ジェネレータ スイッチで受信したパケット数に基づいて、ISL の効率性が表示されます。

マルチホップ トラフィック テストは、ジェネレータおよびリフレクタ スイッチのドメイン ID に基づいています。

（注） マルチホップ トラフィック テストを実行する場合、ジェネレータおよびリフレクタ ポートの両方で実行されているその他のトラフィックではない可能性がありますが、マルチホップ トラフィック テストにより使用される ISL 上で実行されているトラフィックになる可能性があります。

図 3 : マルチホップ エンドツー エンドのトラフィックのテスト （5 ページ） マルチホップ エンドツー エンド トラフィックのテストの詳細を示します。

図 *3:* マルチホップ エンドツー エンドのトラフィックのテスト



ISL診断の設定

Cisco MDS 9700 シリーズ スイッチの遅延テストまたはケーブル長のテストの設定

ジェネレータとリフレクタ スイッチ間の遅延テストを設定するには、次のタスクを実行します。

手順

ステップ 1 次のコマンドを使用してループバック モードに設定することで、テスト用リフレクタ スイッチでテスト インターフェイスを有効にします。

スイッチ B # **diagnostic isl reflector latency_test loop-back interface** インターフェイス *id* **enable**

ステップ 2 ジェネレータ スイッチを設定して、テストを実行し結果を表示します。

スイッチ A # **diagnostic isl latency-test interface** インターフェイス *id*

ステップ 3 遅延テストのリフレクタ ポートを無効にするには、リフレクタ スイッチの次のコマンドを設定します。

switch B# **diagnostic isl reflector latency_test loop-back interface** *interface id* **disable**

遅延テストまたはケーブル長テスト

この例では、遅延テスト用のリフレクタ スイッチのポートを有効にする方法を示します。

```
switch B# diagnostic isl reflector latency_test loop-back interface fc1/13 enable
Reflector Configuration Successful.
```

この例では、遅延テストを実行し、遅延およびケーブル長の両方の結果を表示する方法を示します。

```
switch A# diagnostic isl latency-test interface fc4/1
Waiting for sync to be achieved on the link ....
Sync is achieved, Link has been initialized.
Starting the test ....
-------------------------------------------------------
Latency test Result for port:                    fc4/1
Latency in the switch (in ns):                   399
Latency in the cable (in ns):                    39
Length of the cable (accuracy +/- 2m):           4 m
-------------------------------------------------------
```

この例では、遅延テスト用のリフレクタ スイッチのポートを無効にする方法を示します。

```
switch B# diagnostic isl reflector latency_test loop-back interface fc1/13 disable
Reflector Configuration Successful.
```

Cisco MDS 9500 シリーズ スイッチの遅延テストまたはケーブル長テストの設定

ジェネレータおよびリフレクタ スイッチ間の遅延テストを設定するには、次のタスクを実行します。

手順

ステップ 1 次のコマンドを使用してループバック モードに設定することで、テスト用リフレクタ スイッチでテスト インターフェイスを有効にします。

switch B# **system health isl reflector latency_test loop-back interface** *interface id* **enable**

ステップ 2 ジェネレータ スイッチを設定して、テストを実行し結果を表示します。

switch A# **system health isl latency-test interface** *interface id*

ステップ 3 遅延テストのリフレクタ ポートを無効にするには、リフレクタ スイッチの次のコマンドを設定します。

switch B# **system health isl reflector latency_test loop-back interface** *interface id* **disable**

遅延テストまたはケーブル長テスト

この例では、遅延テスト用のリフレクタ スイッチのポートを有効にする方法を示します。

```
switch B# system health isl reflector latency_test loop-back interface fc4/25 enable
Reflector Configuration Successful.
```

この例では、遅延テストを実行し、遅延およびケーブル長の両方の結果を表示する方法を示します。

```
switch A# system health isl latency-test interface fc12/16
Waiting for sync to be achieved on the link ....
Sync is achieved, Link has been initialized.
Starting the test ....
-----------------------------------------------------------
Latency test Result for port:                    fc12/16
Latency in the switch (in ns):                   1404
Latency in the cable (in ns):                    162
Length of the cable (accuracy +/- 2m):           8 m
-----------------------------------------------------------
```

この例では、遅延テスト用のリフレクタ スイッチのポートを無効にする方法を示します。

```
switch B# system health isl reflector latency_test loop-back interface fc4/25 disable
Reflector Configuration Successful.
```

Cisco MDS 9700 シリーズ スイッチのシングル ホップ トラフィック テストの設定

ジェネレータ スイッチとリフレクタ スイッチ間のシングルホップ トラフィック テストを設定するには、次のタスクを実行します。

手順

ステップ 1 次のコマンドを使用してループバック モードに設定することで、シングル ホップ トラフィック テストのリフレクタ スイッチ上のテスト インターフェイスを有効にします。

switch B# **diagnostic isl reflector traffic_test loop-back interface** *interface id* **enable**

ステップ 2 次のいずれかのオプションを使用してインターフェイスを設定します。

- 指定されたフレーム数、フレーム サイズ、およびレート（リンク速度）パラメータのトラフィックのテストを実行するジェネレータ スイッチ上のインターフェイスを設定します。

  switch A # **diagnostic isl generator interface** *interface id* **start frame-count** *number* **rate** *value* **frame_size min** *minimum size* **max** maximum **step** size *num*

- 指定の期間、フレーム サイズ、およびレート（リンク速度）パラメータのトラフィック テストを実行するジェネレータ スイッチ上のインターフェイスを設定します。

  switch A # **diagnostic isl generator interface** *interface id* **start duration** *seconds* **rate** *value* **frame_size min** *minimum size* **max** maximum **step** size *num*

ステップ 3 ジェネレータ スイッチでシングルホップ トラフィック テストを停止するか、テスト結果を表示するには、次のコマンドを使用します。

switch A# **diagnostic isl generator interface** *interface id* **stop**

ステップ 4 シングル ホップ テストのリフレクタ ポートを無効にするには、リフレクタ スイッチで次のコマンドを設定します。

switch B# **diagnostic isl reflector traffic_test loop-back interface** *interface id* **disable**

単一ののホップ トラフィックのテスト

この例では、ループバック モードに設定することで、シングル ホップ トラフィック テストのリフレクタ上でテスト インターフェイスを有効にする方法を示します。

```
switch B# diagnostic isl reflector traffic_test loop-back interface fc9/37 enable
Reflector Configuration Successful.
```

この例では、特定の期間、速度、フレーム サイズ パラメータでジェネレータ スイッチのトラフィック テストを実行する方法を示します。

```
switch A# diagnostic isl generator interface fc4/5 start duration 100 rate 16G frame_size
 min 16 max 517 step 1
```

この例では、トラフィック テストの実行および停止方法、期間パラメータの結果の表示方法を示します。

```
switch A# diagnostic isl generator interface fc4/3 start duration 10
Waiting for sync to be achieved on the link ....
Link initialized successfully. Starting the test.

switch A# diagnostic isl generator interface fc4/3 stop
-------------------------------------------------------
Traffic test Result for port:                    fc4/3
Packets Transmitted:                             6245142
Packets Recieved:                                6245142
ISL traffic Efficiency (percent):                100.0000
-------------------------------------------------------

switch B# diagnostic isl reflector traffic_test loop-back interface fc9/37 disable
Reflector Configuration Successful.
```

Cisco MDS 9500 シリーズ スイッチの単一つのホップ トラフィック テストの設定

ジェネレータ スイッチとリフレクタ スイッチ間のシングルホップ トラフィック テストを設定するには、次のタスクを実行します。

手順

ステップ 1 次のコマンドを使用してループバック モードに設定することによって、シングル ホップ トラフィック テストにリフレクタ スイッチ上のテスト インターフェイスを有効にします。

switch B# **system health isl reflector traffic_test loop-back interface** *interface id* **enable**

ステップ 2 次のいずれかのオプションを使用してインターフェイスを設定します。

- 指定されたフレーム数、フレームサイズ、およびレート（リンク速度）パラメータのトラフィックのテストを実行するジェネレータ スイッチ上のインターフェイスを設定します。

  switch A# **system health isl generator interface** *interface id* **start frame-count** *number* **rate** *value* **frame_size min** *minimum size* **max** *maximum size* **step** *num*

- 指定の期間、フレーム サイズ、およびレート（リンク速度）パラメータのトラフィック テストを実行するジェネレータ スイッチ上のインターフェイスを設定します。

  switch A# **system health isl generator interface** *interface id* **start duration** *seconds* **rate** *value* **frame_size min** *minimum size* **max** *maximum size* **step** *num*

ステップ 3 シングルホップ トラフィック テストを停止するか、ジェネレータ スイッチでテストの結果を表示するには、次のコマンドを使用します。

switch A# **system health isl generator interface** *interface id* **stop**

ステップ 4 シングル ホップ テストのリフレクタ ポートを無効にするには、リフレクタ スイッチで次のコマンドを設定します。

switch B# **system health isl reflector traffic_test loop-back interface** *interface id* **disable**

単一ののホップ トラフィックのテスト

この例では、ループバック モードを設定して、シングル ホップ トラフィック テストにリフレクタ スイッチ上のテスト インターフェイスを有効にする方法を示します。

```
switch B# system health isl reflector traffic_test loop-back interface fc9/37 enable
Reflector Configuration Successful.
```

この例では、トラフィックを実行および停止して、ジェネレータ スイッチの期間パラメータの結果を表示する方法を示します。

```
switch A# system health isl generator interface fc12/16 start duration 100
Waiting for sync to be achieved on the link .....
Link initialized successfully. Starting the test.

switch A# system health isl generator interface fc12/16 stop
-------------------------------------------------------
Traffic test Result for port:                    fc12/16
Packets Transmitted:                             5293153
```

```
Packets Recieved:                                5293153
ISL traffic Efficiency (percent):                100.0000
-------------------------------------------------------

switch B# system health isl reflector traffic_test loop-back interface fc9/37 disable
Reflector Configuration Successful.
```

Cisco MDS 9700 シリーズ スイッチのマルチホップ トラフィック テストの設定

ジェネレータ スイッチとリフレクタ スイッチ間のマルチホップ トラフィック テストを設定するには、次のタスクを実行します。

手順

ステップ 1 設定することによってループバック モードにジェネレータ スイッチの特定 VSAN およびドメイン ID のマルチホップ トラフィックのテストのリフレクタ スイッチ上のテストインターフェイスを有効にします。

スイッチ B # **diagnostic isl multi_hop reflector loop-back interface** インターフェイス *id* **vsan** *vsan id* **source-domain** ソース *id* **enable**

取得するには、ソース ドメインはリフレクタ スイッチで、次のコマンドを使用します。

スイッチ B # **show fcdomain vsan** *vsan id*

ステップ 2 特定 VSAN、宛先ドメイン (リフレクタ スイッチのドメイン ID)、フレームの数、リンク速度とフレーム サイズ パラメータのマルチホップ トラフィック テストを実行するようにジェネレータ スイッチで、インターフェイスを設定します。

switch A # **diagnostic isl multi_hop generator interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **dest-domain** *dest id* **start frame-count** *number* **rate** *value* **frame_size min** *minimum size* **max** *maximum size* **step***num*

特定 VSAN、宛先ドメイン (リフレクタ スイッチのドメイン ID))]、期間、レート (リンク速度) およびフレーム サイズ パラメータのマルチホップ トラフィック テストを実行するようにジェネレータ スイッチで、インターフェイスを設定します。

switch A # **diagnostic isl multi_hop generator interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **dest-domain** *dest id* **start duration** *seconds* **rate** *value* **frame_size min** *minimum size* **max** *maximum size* **step***num*

取得するには、宛先ドメインはジェネレータ スイッチで、次のコマンドを使用します。

スイッチ A # **show fcdomain vsan** *vsan id*

ステップ 3 マルチホップ トラフィックのテストを停止するか、テストを表示するジェネレータ スイッチでの結果は、次のコマンドを使用します。

switch A # **diagnostic isl multi_hop generator interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **dest-domain** *dest id* **stop**

ステップ 4 リフレクタ ポートを無効にするのには、Mutlihop トラフィックのテストには、リフレクタ スイッチで、次のコマンドを設定します。

switch B# **diagnostic isl multi_hop reflector loop-back interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **source-domain** *source id* **disable**

マルチホップ トラフィックのテスト

この例では、ジェネレータとリフレクタの両方のスイッチで、ドメインのリストを表示する方法を示します。

```
switch# show fcdomain domain-list vsan 1
Number of domains: 3
Domain ID              WWN
---------    -----------------------
0x85(133)    20:01:00:0d:ec:b7:20:01 [Principal]
0xef(239)    20:01:40:55:39:0c:70:81 [Local]
0x02(2)      20:01:00:0d:ec:b7:28:c1
```

この例では、設定することによってループバック モードにジェネレータ スイッチの特定 VSAN およびドメイン ID のマルチホップ トラフィックのテストのリフレクタ スイッチ上のテスト インターフェイスを有効にする方法を示します。

```
switch B# diagnostic isl multi_hop reflector loop-back interface fc9/36 vsan 1
source_domain 239 enable
```

この例では、実行、停止、およびフレーム数のパラメータのジェネレータ スイッチでのトラフィックのテストの結果を表示する方法を示します。

```
switch A# diagnostic isl multi_hop generator interface fc4/10 vsan 1 dest_domain 133
start duration 100
switch A# diagnostic isl multi_hop generator interface fc4/10 vsan 1 dest_domain 133
stop
Generator is stopped.  Clean-up in progress.
Please wait....
-------------------------------------------------------
Traffic test Result for port:                    fc4/10
Packets Transmitted:                             6291024
Packets Recieved:                                6291024
ISL traffic Efficiency (percent):                100.0000
-------------------------------------------------------
switch B# diagnostic isl multi_hop reflector loop-back interface fc9/36 vsan 1
source_domain 239 disable
```

この例では、テストを実行するトラフィック ジェネレータ スイッチでの特定の期間、速度とフレーム サイズ パラメータ方法を示します。

```
switch A# diagnostic isl multi_hop generator interface fc4/10 vsan 1 dest_domain 133
start duration 100 rate 16G frame_size min 16 max 517 step 1
```

スイッチ A # **診断 isl multi_hop ジェネレータ インターフェイス fc4/10 vsan 1 dest_domain 133 stop** ジェネレータを停止します。Clean-up in progress. Please wait.... --ポートのトラフィック テスト結果: パケットの送信 fc4/10: 6291024 パケットを受信しました: 6291024 ISL トラフィック (%) の効率性: 100.0000--。-------

Cisco MDS 9500 シリーズ スイッチのマルチホップ トラフィック テストの設定

ジェネレータ スイッチとリフレクタ スイッチ間のマルチホップ トラフィック テストを設定するには、次のタスクを実行します。

手順

ステップ 1 設定することによってループバック モードにジェネレータ スイッチの特定 VSAN およびドメイン ID のマルチホップ トラフィックのテストのリフレクタ スイッチ上のテストインターフェイスを有効にします。

switch B# **system health isl multi_hop generator interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **source-domain** *source id* **enable**

取得するには、ソース ドメインはリフレクタ スイッチで、次のコマンドを使用します。

switch B# **show fcdomain vsan** *vsan id*

ステップ 2 特定 VSAN、宛先ドメイン (リフレクタ スイッチのドメイン ID)、フレームの数、リンク速度とフレーム サイズ パラメータのマルチホップ トラフィック テストを実行するようにジェネレータ スイッチで、インターフェイスを設定します。

switch A# **system health isl multi_hop generator interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **dest-domain** *dest id* **start frame-count** *number* **rate** *value* **frame_size min** *minimum size* **max** *maximum size* **step** *num*

特定 VSAN、宛先ドメイン (リフレクタ スイッチのドメイン ID))]、期間、レート (リンク速度) およびフレーム サイズ パラメータのマルチホップ トラフィック テストを実行するようにジェネレータ スイッチで、インターフェイスを設定します。

switch A# **system health isl multi_hop generator interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **dest-domain** *dest id* **start duration** *seconds* **rate** *value* **frame_size min** *minimum size* **max** *maximum size* **step** *num*

取得するには、宛先ドメインはジェネレータ スイッチで、次のコマンドを使用します。

switch A# **show fcdomain vsan** *vsan id*

ステップ 3 マルチホップ トラフィックのテストを停止するか、テストを表示するジェネレータ スイッチでの結果は、次のコマンドを使用します。

switch A# **system health isl multi_hop generator interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **dest-domain** *dest id* **stop**

ステップ 4 リフレクタ ポートを無効にするのには、Mutlihop トラフィックのテストには、リフレクション スイッチで、次のコマンドを設定します。

switch B# **system health isl multi_hop reflector loop-back interface** *interface id* **vsan** *vsan id* **source-domain** *source id* **disable**

マルチホップ トラフィックのテスト

この例では、ジェネレータとリフレクタの両方のスイッチで、ドメインのリストを表示する方法を示します。

```
switch# show fcdomain domain-list vsan 1
Number of domains: 3
Domain ID              WWN
---------    -----------------------
0x85(133)    20:01:00:0d:ec:b7:20:01 [Principal]
0xef(239)    20:01:40:55:39:0c:70:81 [Local]
0x02(2)      20:01:00:0d:ec:b7:28:c1
```

この例では、マルチホップ トラフィック テストのジェネレータ スイッチインターフェイスの VSAN 内に存在するリフレクタ スイッチからのループバックをイネーブルに方法を示します。

```
switch B# system health isl multi_hop reflector loop-back interface fc9/36 vsan 1
source_domain 239 enable
```

この例では、開始、停止、およびフレーム数のパラメータのジェネレータ スイッチでのトラフィックのテストの結果を表示する方法を示します。

```
switch A# system health isl multi_hop generator interface fc3/18 vsan 1 dest_domain 2
start frame-count 1000000
switch A# system health isl multi_hop generator interface fc3/18 vsan 1 dest_domain 2
stop
Generator is stopped.  Clean-up in progress.
Please wait....
-----------------------------------------------------------
Traffic test Result for port:                    fc3/18
Packets Transmitted:                             1000000
Packets Recieved:                                1000000
ISL traffic Efficiency (percent):                100.0000
-----------------------------------------------------------
```

```
switch B# system health isl multi_hop reflector loop-back interface fc9/36 vsan 1
source_domain 239 disable
```

この例では、テストを実行するトラフィック ジェネレータ スイッチでの特定の期間、速度とフレーム サイズ パラメータ方法を示します。

```
switch A# system health isl multi_hop generator interface fc4/5 vsan 1 dest_domain 133
start duration 100 rate 16G frame_size min 16 max 517 step 1
```

ISL 診断のデバッグ

表 1 : Cisco MDS 9700 および 9500 スイッチのデバッグ コマンド （14 ページ） では Cisco MDS 9700 および 9500 スイッチのデバッグ コマンドの一覧が表示されます。ISL 診断テストのステータスを表示するには、次のコマンドのいずれかを使用します。

表 *1 : Cisco MDS 9700* および *9500* スイッチのデバッグ コマンド

コマンド	参照先
Cisco MDS 9700 スイッチ	
show diagnostic isl status index start *index* **num** *number*	ポートごとに設定されている ISL 診断テストのステータスを表示します。
Cisco MDS 9500 スイッチ	

system health isl show status
例 :
`switch# system health isl show status index start 0 num 10`
`show status of isl_daig:`
`----------`
`Index: 0 if_index:0x110f000 :is_running: 0 is_reflector:1 is_latency:1 is_multihop:0`
`Index: 1 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
`Index: 2 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
`Index: 3 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
`Index: 4 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
`Index: 5 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
`Index: 6 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
`Index: 7 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
`Index: 8 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
`Index: 9 if_index:0x0 :is_running: 0 is_reflector:0 is_latency:0 is_multihop:0`
	ポートごとに設定されている ISL 診断テストのステータスを表示します。

その他の参考資料

オンライン診断の実装に関する詳細情報については、次の項を参照してください。

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
スイッチ間のリンク診断CLIコマンド	『Cisco MDS 9000 Family Command Reference』

オンライン診断機能の履歴

表 2 : オンライン診断機能の履歴 （15 ページ） に、この機能のリリース履歴を示します。

表 *2 :* オンライン診断機能の履歴

機能名	リリース	機能情報
ISL 診断	7.3(0)D1(1)	この機能が導入されました。